

資料名「サヘル・ローズ」

テーマ（生徒が自分らしく生きることの大切さに気付く授業の工夫）

学校名（広島県立芦品まなび学園高等学校）

- 1 学年** 第2学年
- 2 主題名** 強い意志 1－（2） 関連項目 個性の伸長 1－（5）
- 3 ねらい** 過酷な状況で生きてきたサヘル・ローズさんの生き方を通して、自分の人生と向き合う勇氣と強さを学ぶ。その後、構成的グループ・エンカウンターを通して自分の短所に対する見方を変える。
- 4 資料名** 「サヘル・ローズ」（出典：集英社 「人間らしくヘンテコでいい」 鎌田 實）
 補助資料「伝えたいことがあるからー女優・サヘル・ローズー」NHKテレビ「ハートネットTVブレイクスルー」より

5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入 （ 1 限 目）	1 「自分らしく生きる」ことについて考える。	○ 「あなたは、今自分らしく生きていますか」と聞かれたらどう答えますか。 ・ あまり自分らしく生きていない。 ・ 自分らしさが何か分からない。 ○ 本と本の帯に書かれている文章を紹介する。	○ 資料への興味付けを図るため、帯文章をゆっくり考えさせるように読む。
展 開	2 資料を生徒が順番に読む。 3 資料から内容を深く考える。	○ フローラさんがサヘルさんの里親になったのは何故だろう。 ・ 親兄弟が全員死んだから。 ・ ボランティアをする人だから優しい。 ・ 6歳では養子にもらう人がいないと思ったから。 ・ 自分が助けた子だから。 ○ 中学時代、サヘルさんが「自分は存在価値がない」と思ってしまう原因となったいじめについてどう思ったか。 ・ 外国人だからと言っていじめるのはおかしい。 ・ 日本の学校ってすぐ人をいじめる。 ・ サヘルさんは何も悪いことをしていないから自分に価値がないと思わなくていい。 ・ 軽い言葉でも言われた方はとても傷つく。	○ 資料の内容を確認するためにフローラさんが里親になった理由を考えさせる。 ○ いじめが自分の責任ではなく、理不尽なことであることを感じさせるためにいじめの問題を客観的に見つめさせる。

		<p>○ 「死にたい」という気持ちがどう変わったのか。 →「お互いのために生きよう」</p> <p>○ そのように気持ちが変わったのはどうしてだろう。ワークシート1に記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親もしんどいのが分かった。 ・ 母親の弱さに触れた。 ・ 母親が自分を希望として生きていることが分かった。 ・ 自分のために生きるのは案外踏ん張れない。 ・ 自分を必要としてくれている人のために生きよう。 <p>◎ 自分の家族が生きることが苦しくて泣いたら声をかけますか。それともかけませんか。星印に○をつけ、その理由もワークシートに書きましょう。次に自分のマグネットを黒板に貼りましょう。</p> <p>★ 声をかける・・・</p> <p>☆ 声をかけない・・・</p>	<p>○ 補足として、普段フローラさんは明るくいつも前向きであること。サヘルさんも里子という負い目のため遠慮があり、きちんと向かい合えていなかったことを伝える。</p> <p>○ 自分の考えを明確にするためネームプレート（自分の名前を書いてあるマグネット）を黒板に貼る。</p>
展 開 （ 2 限 目 ）	4 DVDを視聴する。	<p>○ それぞれの立場の理由を発表しよう。</p> <p>★ 声をかける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も家族の一員だから。 ・ 家族のことが心配。 ・ どうしたのか聞きたい。 <p>☆ 声をかけない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしい。 ・ 勇気が出ない。 ・ 家族でも立ち入ってはいけないと思うから。 ・ 自分で解決できるか分からない。 <p>○ サヘルさんやフローラさんの現在の姿をDVDで見ましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この人なんだ。とても明るい。 ・ 資料で読んだようなことがあったとは想像がつかない。 ・ もし、あの時のことがなかったらどうなっていたんだろう。 	<p>○ サヘルさんの状況に自分を重ね、運命に向き合う難しさに気付かせるために、ワークシートに理由まで書かせる。</p> <p>○ 「声をかけない」が全員でもよい。但しサヘルさんの場合は、声をかけたことによって生き方が変わったのではないかと投げかける。</p> <p>○ DVDを視聴することによってサヘルさんが現在もっている夢や目標が分かる。</p>

	<p>5 ここまでで感じたことや気付いたことをワークシートに書く。</p>	<p>○ ここまでに、感じたことや気付いたことをワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サヘルさんは、とても生き生きと生きている。私も自分の殻を破って自分らしく生きたい。 ・ どうしたらあのように使命感をもって生きられるのか。 ・ 辛い生い立ちにもかかわらず力強く生きている。 ・ フローラさんの優しさが半端でない気がする。 	<p>○ 高校での自己紹介の内容は、サヘルさんが母親と向き合っていることが関係していることに触れる。</p> <p>☆ サヘルさんの生き方に自己を重ねて考えることができているか。 (ワークシート)</p>
	<p>6 自分の短所をリフレーミングしてもらおう。</p>	<p>○ ワークシート2の「私は.....」に自分の短所と思うものを記入しましょう。</p> <p>○ 自分の短所に対して、班の人にリフレーミングしてもらいましょう。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消極的→慎重・よく考えてから行動・奥ゆかしいなど。 	<p>○ 班で交流するために班机になる。</p> <p>○ リフレーミングの仕方を例示する。</p> <p>○ T1・T2: 机間指導でリフレーミングの援助を行う。</p>
	<p>7 感想や気付きを記入し、発表する。</p>	<p>○ リフレーミングをしてもらったの感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の短所も見方を変えるとポジティブに言い換えられると分かった。 ・ みんなに考えてもらってうれしい。 ・ 自分のことは、まだよく分からないところがあるけど、自分らしさを見つけていきたい。 	
<p>終末</p>	<p>8 自分らしく生きることを考える。</p>	<p>○ 今日の授業を通して、自分らしく生きるということ考えられましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだ、自分らしく生きるということがよく分からなが、自分の気持ちを確認しながら生きたいと思う。 ・ 自分は自分という生き方を見つけていきたい。 ・ サヘルさんのように自分らしく生き生きと生きたいと思った。 	<p>☆ 自分らしく生きることの大切さが分かっている。 (ワークシート)</p>

活用に向けたポイント

1 生徒の実態

本校には福塩線沿線を中心に、福山市をはじめとする県東部の広範な地域から生徒が通学してきている。真面目で地道に努力できる生徒が多い反面、過半数が不登校・長期欠席を経験しており、コミュニケーション能力の育成、基本的な生活習慣の定着という点で課題のある生徒が多い。また、これまでの失敗体験等から自己肯定感が十分に育てていない生徒も多く見られるのが実態である。

2 教材開発及び指導過程の工夫

今回の授業では、親や厳しい現実に向き合うことで新たに見えてくるものがあることを生徒に伝え、今の自分や将来出会うであろう困難な状況にも勇気をもって向き合ってもらいたいという気持ちで指導を行なった。

前半のサヘルさんの話から、後半に実施する構成的グループ・エンカウンターでの短所の自己開示につなげる展開には少し無理があった。昨年まで実施していた構成的グループ・エンカウンター的成果を生かし、少しでも自分の短所を友達に開示する勇気を出していく。そして、友達にリフレーミングしてもらうことによって、自分の短所への見方が変わり、自己肯定感の高まりを感じられる体験ができるのではないかと考え、このような流れとした。

3 発問の工夫

サヘルさんが母親と向き合ったことを自分に重ね合わせる意味で、自分の家族が生きることが苦しくて泣いている場面に遭遇したら「声をかける」・「声をかけない」のどちらの立場をとるのか、名前のマグネットを黒板に貼りに出すことにより意思表示をはっきりさせた。また、その理由も発表させることにより、それぞれ自

分とは違った思いの生徒がいることが分かり、これからの生徒の人生でどのような態度を自分が取るのかを考えさせることにつながると考えた。

4 生徒の反応（生徒の感想文）

- ・いじめなどのひどい状態に遭って絶望しても自分のためだけでなく、お母さんのために生きたいという新しい希望を発見したサヘルさんはすごいと思った。サヘルさんのように夢・希望を失わずに生きたい。
- ・私もいじめられて死にたいと思ったことがあったので、サヘルさんのように生きる希望を見つけて今をちゃんと生きようと思いました。死んでいい人なんていないと思いました。
- ・DVDの「生かされているのには意味がある」という言葉に感動した。「生きていても意味がない」と言う人も確かにいるけれど、そうではなくて、生き抜くことは、意味はあると思ったなら人生が明るく楽しくなると思う。

5 活用に当たってのポイント

この授業を行うことで、自分の高校生活を振り返り、自分らしく生きることについて考えさせることができる。加えて、サヘルさんの中学時代のいじめを客観的に見ることにより、いじめの理不尽さを考えさせることもできる。また、苦しいときに弱音を吐くことで、今まで気付かなかった他者の気持ちにハッとさせられることもある。

実施に当たっては、辛かった自身のいじめの体験を思い出す生徒もいることから、自分の思いを安心して語れるクラスづくりを日頃から行っていくことが必要である。